

「子供らの成長楽しみ」

AMDA 森田さん ハイチ復興支援

スポーツ親善交流

中高生ら18人参加

国際医療救援団体「AMDA」(北区)は3日、記者会見し、ハイチ復興を支援するスポーツ親善交流を報告した。日本からは岡山、大阪、広島の中高生18人が参加した。先月、サッカー大会が開かれたハイチの隣国ドミニカ共和国に駐在し、ハイチや日本の子供たちの受け入れに奔走したAMDA調整員、森田佳奈子さん

混乱もある。森田さんは在ドミニカのハイチ大使館に企画の趣旨を説明に歩き、滞りなくパスポートを発行するよう求めた。グラウン

ドに3万国の子供が無事、顔をそろえた時に胸をなで下ろした。森田さんは、プロジェクトにかかわり「国際貢献」や「市民参加外交」を具体化する難しさを感している。参加した大阪府の子供た

ハイチ、日本、ドミニカの子供たち。森田さんは旗の後ろの白色シャツの女性
—サントドミンゴで8月18日



(31)が支援プロジェクトを振り返った。

森田さんはドミニカから一時帰国している。08年、10年1月に青年海外協力隊員としてドミニカに2年間に住し、今年5月にAMDAスタッフとしてハイチ入りし、スポーツ親善交流を手がけた。

難航したのはハイチチームのパスポート取得だった。申請に必要な書類をそろえることに加え、ハイチではパスポートを発行する出入国管理部署は連日、国外に職を求めるとハイチ人であふれかえり、

ちと一緒にJR新大阪駅に降りたとき、迎えに来た親たちは無事に帰ってきたことを泣きながら喜んでいて。それを見たとき「ドミニカに行くこと自体が大変だ。さらに、市民が参加して現地での交流や復興支援を進めるにはどうしたらいいのだろうか」と考えた。

一方で子供たちに「ハイチの現状や「知らない世界」を伝える仕事に魅力も感じた。森田さんは「現地を訪れた子供たちに別の世界があることは分かってもらえたと思う。ここからどう成長していくか楽しみます」。

ハイチ関連のプロジェクトを続けようと考えている。【石戸諭】